

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02553

研究課題名（和文）醸造業による農村工業化と和食文化の形成に関する地域比較研究

研究課題名（英文）Regional Comparative Study on Rural Industrialization by Brewing Industry and Formation of Japanese Food Culture

研究代表者

井奥 成彦（Ioku, Shigehiko）

慶應義塾大学・文学部（三田）・教授

研究者番号：60184371

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では日本各地の醤油醸造業者、酒造業者などの調査、研究を行い、その発展の地域的基盤と地域の食文化への影響を考察した。

醤油醸造業では、青森県野辺地の野坂家、千葉県銚子のヤマサ醤油株式会社及び野田の高梨家（キッコマンの源流の一つ）、愛知県半田の小栗家、富山県射水の片口家、大分県中津の菊池家で調査、研究を行い、酒造業では、兵庫県灘五郷、東広島、山口県下関、福岡県久留米において地域振興との関連を研究し、いずれも多くの成果が得られた。また、半田の料亭末廣の史料調査も行った。

総じて日本近代化過程における醸造業の貢献度の高さと、地域の食文化への影響の大きさを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の近代化過程においては、在来産業と近代産業の両方が経済発展を推し進めたとされるが、本研究では特に、近代以前から発展を継続した在来産業、特にその中心となった酒造業、醤油醸造業など醸造業の貢献をクローズアップすることができた。

また、これまでの醤油醸造業史研究では関東、近畿など限られた地域を対象としていたが、本研究では東北、北陸、九州など、従来研究未開拓もしくは研究の乏しかった地域も含めて広く各地の業者を取り上げ、その地域的基盤や各地の食文化との関連を考察したことに意義がある。さらに特に酒造業について、それを通しての今後の地域振興をも視野に入れたことは、本研究の社会的意義に繋がっている。

研究成果の概要（英文）： In this study, we investigated and researched soy sauce brewers and sake brewers in various parts of Japan, and considered the regional basis of their development and the impact on the local food culture.

In the soy sauce brewing industry, we conducted surveys and research at the Nosaka family in Noheji, the Yamasa Shoyu Co., Ltd. in Choshi, and the Takanashi family in Noda (one of the origins of Kikkoman), the Oguri family in Handa, the Kataguchi family in Imizu, the Kikuchi family in Nakatsu, and in the sake brewing industry, we researched the relationship with regional development in Nada, Higashihiroshima, Shimonoseki, and Kurume, and obtained many results. And we also conducted a historical research on the restaurant Suehiro in Handa.

Overall, we were able to clarify the high degree of contribution of the brewing industry to the process of modernization of Japan and the magnitude of its impact on the local food culture.

研究分野：日本経済史

キーワード：醸造業 農村工業 和食文化 地域比較

1. 研究開始当初の背景

近世 - 近代の日本の産業における醸造業の重要性は、古くは山口和雄（『明治前期経済の分析』東京大学出版会、1956年）や古島敏雄（「諸産業発展の地域性」、地方史研究協議会編『日本産業史大系』1、東京大学出版会、1961年）らによって指摘されていた。明治7(1874)年段階で、工産物の生産額1位に酒類、3位に醤油、5位に味噌という醸造製品が入っており、当時醸造製品は綿織物や生糸など繊維製品を抑えて、日本の最も主要な工業部門であったのである。

近世に確立した複雑かつ精緻な酒や醤油の製法は造る者の繊細な感覚と根気を必要とし、そこから質の良い製品が生み出されてきた。鎖国下の長崎貿易で、オランダ経由で入手した醤油を口にして、その奥深い味わいに絶賛したルイ14世、明治初期にフランスへ渡ってワイン醸造を視察し、その製法のあまりの単純さに、日本酒の優越性を感じ取って帰国した山梨県の酒造家の子弟の事例などが、日本の醸造業の質の高さと他国のそれに対する優位性を物語っている。

工業化以降も、在来産業・近代産業が一体となって発展していく中で、日本の醸造業は順調に成長を遂げ、今や醤油は日本料理のみならずステーキなどにも用いられる世界の調味料となっており、大手メーカーは世界各地で現地生産をしている。今日日本国内での醤油の流通量は減っているが、それは一旦生産された醤油がドレッシングやつゆ、たれなど姿を変えて流通している部分が増えたからであって、醤油そのものの生産が減っているわけではない。日本酒も、大手メーカーは世界各地で現地生産を行っている。このように、日本発のグローバル商品を生み出した産業として、日本と世界の食文化を結ぶ調味料や飲料を造る産業として、日本の醸造業は今日でも重要な位置を占めている。

ところで、今日の斯業の大メーカーは、元はといえば豪農など地域の有力者である場合が多く、彼らは地域の工業化を推し進め、地域に貢献しつつ今日に至った。例えば林玲子編『醤油醸造業史の研究』（吉川弘文館、1990年）が銚子のヤマサ醤油の事例を、公益財団法人高梨本家監修、井奥成彦・中西聡編著『醤油醸造業と地域の工業化』（慶應義塾大学出版会、2016年）が野田のキッコマンの前身の一つである高梨家の事例を取り上げている。

また、酒造業にしても醤油醸造業にしても、現在それぞれ国内に1000を超える製造業者が存在しており、その大部分は中小業者で、上記のようにそれぞれ農村地域の有力者がその地域の工業化を推し進め、各地の食文化の形成に重要な役割を果たしてきた結果がそのようなかたちで表れているのである。そういった中で、林玲子・天野正敏編『東と西の醤油史』（吉川弘文館、1999年）では小豆島、湯浅、愛知、福岡などの醤油醸造業者の事例が取り上げられ、その中で井奥は、近代の北部九州において、その地域独特の醤油である再仕込醤油を基礎とする「再仕込醤油文化圏」ともいべき食文化圏が形成されたことを示した。その後農村での醸造業の発展と地域の食文化への影響を取り上げた研究は各地で徐々に広がりを見せ、中西聡・井奥成彦編著『近代日本の地方事業家』（日本経済評論社、2015年）では東海地方の醤油醸造業者の存立基盤や食文化との関係、販路拡張の過程が井奥によってクローズアップされたが、本研究開始時点では、日本全体としてはまだ各地域で「点」としての事例が検出されているにとどまっていたし、東北・北海道や北陸など研究が未開拓の地域も多かった。酒造業においても、藤原隆男（『近代日本酒造業史』ミネルヴァ書房、1999年）や青木隆浩（『近代酒造業の地域的展開』吉川弘文館、2003年）らによって地方の醸造家に

についての精力的な研究がなされてきたが、その存立基盤や地域の食文化との関連において、なお残された課題は多かった。

2．研究の目的

そこで本研究では、従来「点」的に行われてきた研究を「面」の研究に近づけるべく、研究代表者、研究分担者に研究協力者も加えて大規模にグループを組織し、これまで研究の乏しかった地域の醸造業者（多くは豪農）を取り上げ、彼らが近世から近代にかけていかなる基盤の上に地域の工業化を推し進め、そこで造られる商品が地域の食文化の形成にいかなる役割を果たしたのかを比較検討し、日本の多様な食文化形成の一端を明らかにしようとした。

具体的には東北地方、関東地方、北陸地方、東海地方、近畿地方、中国地方、九州地方の醸造業者、ことに醤油醸造業者と酒造業者を対象にしたが、その中では酒造業者よりも醤油醸造業者によりウエイトを置いた。その理由は、醤油が調味料として地域の食文化に直接影響するのに対して、酒は食文化的にはいわば脇役の位置にとどまるからである。しかし、こういった料理にこういった酒が合うかということも重要な問題なので、その点には留意しつつ研究を進めることとした。

総じて従来の醸造史研究のように経営史的、技術史的側面の研究にとどまらず、醸造業と和食文化との関連をも浮き彫りにすることをめざした。

3．研究の方法

醸造製品産地の具体的研究対象として青森県野辺地の醤油醸造業者野坂家、千葉県銚子のヤマサ醤油株式会社、野田の醤油醸造業者高梨家、神奈川県溝口の醤油醸造業者上田家、富山県射水の醤油醸造業者片口家、愛知県半田の醤油醸造業者小栗家、丸三麦酒、料亭末廣、及び兵庫県灘の各酒造業者、広島県東広島の各酒造業者、山口県下関の下関酒造、福岡県久留米の各酒造業者、大分県中津の醤油醸造業者菊池家（室屋）を選び、それぞれ研究分担者に連携研究者、研究協力者を加えた数名ずつの班を組織して、分担して史料整理、研究を進めるとともに、研究成果を互いに共有するため研究会を各年度夏、春の2回ずつ開催した。なお、史料整理に際しては、班にこだわらず参加できる者はできるだけ参加するようにした。

研究の手順としては、いずれの研究対象においても、まず帳簿など経営史料を分析、経営状況や経営基盤を明らかにし、ついで地域の史料も含めてその地域の食文化との関連部分を史料から抽出、考察した。研究成果は各自学会報告や論文のかたちで世に示すとともに、当研究グループとしての共著書を刊行することとした。

4．研究成果

上記調査対象のうち末廣と菊池家については、それぞれ膨大な史料群を一から整理することから始めたため、未だ整理途上であるが、他の調査対象については学会報告や論文のかたちで多くの成果が得られた。個別具体的には別記の通りであるが、ここでは主なものを掲げておく。

東北地方では、研究分担者の花井俊介と研究協力者の小杉亮介が青森県野辺地の野坂家（山三醤油）などの調査、研究を行い、明治初期に創業した同家が塩分の強い醤油を醸造することを特徴としてきたことを明らかにした。こうした醤油が東北地方の料理の特徴である塩辛さの基になっていると思われる。

関東地方では、本研究の以前から我々研究グループのメンバーによって千葉県銚子のヤ

マサ醤油や千葉県野田の高梨家(キッコーマンの源流の一つ)の研究を行ってきたが、本研究においても引き続き、研究分担者の三科仁伸が戦間期ヤマサ醤油の労働環境の問題を、同じく研究分担者の前田廉孝が明治後期高梨家の製品ポートフォリオの問題を取り上げた。特に後者においては、高梨家が取引地域別に製品を造り分けていたことを明らかにした。このことから、同じ関東地方でも地域により食文化に微妙な差異をもたらしたことが想定されるが、具体的なことは今後の課題として残った。このほか関東地方では、研究分担者落合功が、東京近郊の神奈川県溝口の中小醤油醸造業者上田家の明治期の醤油醸造業の、主に経営面の研究を行った。こうした中小醤油醸造業者が地域の食文化に及ぼした影響も今後取り組むべき課題である。

北陸地方では、研究分担者中西聡と研究代表者井奥成彦が富山県射水の中小醤油醸造業者片口家の明治以降の経営と地域との関係、同家の醤油の食文化との関連を研究した。同家は関西から移入した蜜を添加して甘い味の醤油を造ってきたが、甘い味の醤油は日本海側に広く見られる特徴であり、また関西から蜜を移入していたことを考え合わせると、北前船を通じた食文化の共通性の形成が想定される。この点についても、今後さらに研究を深化させていきたい。

東海地方では、本研究以前から我々が調査、研究を行ってきた醤油醸造業者小栗家の丸三麦酒への関わりを研究分担者橋口勝利が研究し、また本研究で新たに見出した料亭末廣の史料に関しては、井奥、中西、橋口、研究分担者市川大祐らを中心に現在整理途中であるが、地域の食文化をまさに体現している料亭の史料だけに、今後に期すところは大きい。

また、三科仁伸が近畿地方の灘五郷、中国地方の東広島及び下関、九州地方の城島(久留米)において酒造業と地域振興との関係を研究し、研究協力者田中醇が九州地方福岡県筑豊の醤油醸造業者許斐家の近代の醤油醸造業について研究した。田中の研究においては、アミノ酸醤油という九州地方でよく用いられてきた醤油を取り上げ、同地方の食文化との関連に言及している。また、大分県中津の醤油醸造業者菊池家(室屋)の近代の新出史料を井奥、前田、三科、及び田中が中心となって整理している。膨大な史料群ゆえ研究は今後に待たれるが、井奥や田中によるこれまでの北部九州での醤油醸造業史研究とどのように関連付けるかが課題となる。

そのほか醤油の原料となる塩の生産、流通に関する研究も落合、前田によってさかんに行われ、多くの成果が得られた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中西聡	4. 巻 18
2. 論文標題 明治期日本における流通構造の変容と海運業者	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 企業家研究	6. 最初と最後の頁 43-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本雅之	4. 巻 62-2
2. 論文標題 Introduction and diffusion: useful and reliable knowledge in early modern industrial Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Technology and Culture	6. 最初と最後の頁 423-441
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田廉孝	4. 巻 75-1
2. 論文標題 講座 「財政専売」の時代: 近代日本の食塩・塩専売制度と経済学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 46-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田廉孝	4. 巻 89-4
2. 論文標題 日露戦後日本の政府介入と超過需要: VAR・VECモデルによる専売制度下食塩市場の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史学	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合功	4. 巻 29
2. 論文標題 近代揺籃期における塩業界	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山口県史研究	6. 最初と最後の頁 61-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三科仁伸	4. 巻 37
2. 論文標題 戦前期日本における高等教育機関による実業界への人材供給 慶應義塾大学出身者を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近代日本研究	6. 最初と最後の頁 159-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田廉孝	4. 巻 25
2. 論文標題 地方零細銀行と地域経済: 1898 ~ 1919年香川県宇多津町の製塩業金融	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済史研究	6. 最初と最後の頁 59-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西聡	4. 巻 257
2. 論文標題 近代日本における醤油醸造家と地域社会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 55-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋口勝利	4. 巻 114-4
2. 論文標題 近代日本の工業化と綿紡績業	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 三田学会雑誌	6. 最初と最後の頁 5-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合功	4. 巻 30
2. 論文標題 明治十年代前半の十州塩田同盟と防長塩田－明治十一年四月－十四年六月－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山口県史研究	6. 最初と最後の頁 23-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合功	4. 巻 74-3
2. 論文標題 近世における備前児島の製塩業－児島郡味野村から見た－断面－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 青山経済論集	6. 最初と最後の頁 107-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合功	4. 巻 31
2. 論文標題 明治十年代後半期における塩業界	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 山口県史研究	6. 最初と最後の頁 29-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井奥成彦	4. 巻 49
2. 論文標題 福澤諭吉と濱口梧陵	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三田教育会報	6. 最初と最後の頁 8-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 難波利光・三科仁伸	4. 巻 12
2. 論文標題 官民一体型の連携事業による産業振興の可能性 灘五郷における酒造ツーリズムの事例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域共創センター年報	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋口勝利	4. 巻 69
2. 論文標題 近代知多地方の企業勃興 - 丸三麦酒と地方資産家	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西大学『経済論集』	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田廉孝	4. 巻 85
2. 論文標題 日露戦後の必需品課税における脱税行為と監視・取締 - 塩専売法違反を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 89-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20624/sehs.85.4_443	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Maeda Kiyotaka	4. 巻 -
2. 論文標題 Market-based financing for small corporations during early industrialisation: The case of salt corporations in Japan, 1880s-1910s	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Business History	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00076791.2020.1825689	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田廉孝	4. 巻 89
2. 論文標題 帝国日本の台湾・関東州塩需給と流通主体：1890-1910年代を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史学	6. 最初と最後の頁 83-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三科仁伸・難波利光	4. 巻 29
2. 論文標題 下関市における小規模酒造業者の経営展開 下関酒造を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関門地域研究	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 難波利光・三科仁伸	4. 巻 13
2. 論文標題 酒造を活用した観光まちづくり 久留米市城島・東広島市西条	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域共創センター年報	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井奥成彦	4. 巻 37
2. 論文標題 濱口梧陵 営利と社会貢献：醤油の利益を社会のために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 MUSE	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合功	4. 巻 305
2. 論文標題 近世後期における塩業経営者のネットワーク	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史学研究	6. 最初と最後の頁 129-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合功	4. 巻 36
2. 論文標題 塩田開発期の竹原	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島県郷土史研究協議会機関誌	6. 最初と最後の頁 7~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合功	4. 巻 10
2. 論文標題 砂糖国産化と国家利益思想	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 145-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mikio Ito, Kiyotaka Maeda, and Akihiko Noda	4. 巻 -
2. 論文標題 The futures premium and rice market efficiency in prewar Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Economic History Review	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ehr.12608	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田廉孝	4. 巻 3
2. 論文標題 食料をめぐる経済政策と消費の嗜好性：戦前期日本の米穀・食塩を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 嗜好品文化研究	6. 最初と最後の頁 48-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田廉孝	4. 巻 52
2. 論文標題 戦間期日本における米穀先物取引の変動と記述史料：取引所作成史料の限界と大阪堂米会発行誌の意義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 西南学院大学経済学論集	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mikio Ito, Kiyotaka Maeda, and Akihiko Noda	4. 巻 なし
2. 論文標題 Discretion versus policy rules in futures markets: A case of the Osaka-Dojima Rice Exchange	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Quantitative Finance Papers, [arXiv: 1704.00985]	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計41件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 帝国日本の台湾・関東州塩供給：1890～1910年代を中心に
3. 学会等名 2020年度三田史学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井奥成彦
2. 発表標題 近代北陸の醤油醸造業と片口屋
3. 学会等名 2020年度醤油醸造業史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masayuki Tanimoto
2. 発表標題 The City of Workshops
3. 学会等名 2nd World Congress on Business History
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 地方零細銀行と地域経済：1898～1919年香川県宇多津町の製塩業金融
3. 学会等名 近世史フォーラム2021年度10月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 鈴木藤三郎と岡田良一郎
3. 学会等名 日本經濟思想史学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 塩の産地と赤穂の塩
3. 学会等名 東備西播の日本遺産講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 江戸地廻り經濟の研究と明治前期の塩業界
3. 学会等名 2021年度醤油醸造業史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三科仁伸
2. 発表標題 戦時期ヤマサ醤油における労働環境 人事課・庶務課の業務日誌による分析 』
3. 学会等名 経営史学会関東部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 在来産業の製品ポートフォリオ拡張と低級品市場：1890～1910年代醤油醸造家・高梨家の地方売りと手印類似品
3. 学会等名 2022年度三田史学会日本史部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kiyotaka Maeda
2. 発表標題 Colonial impact on Japan's economy: Dynamics of the rice market during the interwar period
3. 学会等名 19th World Economic History Congress
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kiyotaka Maeda
2. 発表標題 Did a small commodity exchange only mirror prices in a major market?
3. 学会等名 The 1st Academic Seminar of the Food Distribution and Consumption in Modern East Asia and the Japanese Empire
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 在来産業の製品ポートフォリオ拡張と低級品市場：1890～1910年代醤油醸造家・高梨家の地方売りと手印類似品
3. 学会等名 経営史学会第58回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kiyotaka Maeda
2. 発表標題 Disparity in price formation between central and local commodity markets with the expansion of colonial imports: Analysis on the futures pricing of rice in Tokyo, Osaka, and Kumamoto
3. 学会等名 The 2nd Academic Seminar of the Food Distribution and Consumption in Modern East Asia and the Japanese Empire
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 明治前期における塩業界
3. 学会等名 日本経済思想史学会西日本部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 実業家、鈴木藤三郎の考え方
3. 学会等名 遠州アカデミー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 明治時代上田家の醤油醸造業
3. 学会等名 大山街道歴ふるさと館ふるさと歴史講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shigehiko Ioku
2. 発表標題 Web of Ties : Supply and Circulation of Colonial Resources in Early 20th Century East Asia
3. 学会等名 XIX World Economic History Conference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小杉亮介
2. 発表標題 近代における青森県の小規模醤油醸造業者の販路形成と北海道・東北地域の醤油市場構造 青森県上北郡野辺地町・野坂家の事例を通して
3. 学会等名 醤油醸造業史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋口勝利
2. 発表標題 近代知多地方の企業勃興－丸三麦酒と小栗家
3. 学会等名 醤油醸造業史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中醇
2. 発表標題 明治大正期の福岡県筑豊地域における醤油醸造業 嘉穂郡許斐家を事例として
3. 学会等名 醤油醸造業史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 明治・大正期日本の1次産品供給と政府・企業：台湾・関東州塩の事例
3. 学会等名 醤油醸造業史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小杉亮介
2. 発表標題 近代青森県の醤油味噌醸造業者の販売にみる青森県・北海道の市場環境変化の影響
3. 学会等名 経営史学会関東部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小杉亮介
2. 発表標題 近代青森県の醤油味噌醸造業者の販売動向からみる醸造業経営の展開過程 - 青森県上北郡野辺地町・野坂味噌醤油店の事例を通して -
3. 学会等名 第55回経営史学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 大正期塩専売法違反の認知と処分：1916年度坂出専売支局管内を事例に
3. 学会等名 日本塩業研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 日露戦時・戦後の課税強化と監視・取締：塩専売法違反を事例に
3. 学会等名 香川大学経済学部現代社会研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 難波利光・三科仁伸
2. 発表標題 酒蔵を核としたまちづくりと観光の可能性
3. 学会等名 2019年度地域共創研究報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三科仁伸
2. 発表標題 阪神電気鉄道による旅客誘因政策の展開 灘五郷酒造地域との関係を事例に
3. 学会等名 鉄道史学会第37回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 日露戦後日本の政府介入と超過需要：専売制度下食塩市場の分析
3. 学会等名 大阪経済大学日本経済史研究所第99回経済史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 難波利光・三科仁伸
2. 発表標題 酒造を活用した観光まちづくり 久留米市城島・東広島市西条
3. 学会等名 2020年度地域共創（産学官）研究報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 信用組合理念の形成
3. 学会等名 西安第8回日本学研究会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 塩田開発期の竹原
3. 学会等名 日本塩業研究会第1回例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 塩業経営者間の調整と連携
3. 学会等名 越後宮川高橋家文書の研究
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 瀬戸の海に輝いた塩の町たけはら
3. 学会等名 竹原郷土文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合功
2. 発表標題 砂糖国産化と国益思想
3. 学会等名 第五回日本学ハイエンドフォーラム東アジアの視点から見る中日経済の合作と展望国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 青木隆浩
2. 発表標題 書評 二宮麻里『酒類流通システムのダイナミズム』（有斐閣，2016年）について
3. 学会等名 経営史学会西日本部会 9月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kiyotaka Maeda
2. 発表標題 Financial arrangements of small and medium enterprises and regional capital market in prewar Japan
3. 学会等名 The 3rd International Conference on Economic History（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mikio Ito, Kiyotaka Maeda, and Akihiko Noda
2. 発表標題 Market integration in the prewar Japanese rice markets
3. 学会等名 The 3rd International Conference on Economic History (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前田廉孝
2. 発表標題 明治・大正期における植民地産品需給とその政策的課題：塩専売制度下食塩市場を事例に
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会2017年度秋季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mikio Ito, Kiyotaka Maeda, and Akihiko Noda
2. 発表標題 Market efficiency and price stabilization policy in interwar Osaka-Dojima Rice Exchange
3. 学会等名 Western Economic Association International 92nd Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前田廉孝・野田顕彦・伊藤幹夫
2. 発表標題 戦間期大阪堂島米穀取引所における先物市場の価格形成と米穀政策
3. 学会等名 社会経済史学会第86回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kiyotaka Maeda
2. 発表標題 Historical documents on rice futures trading in interwar Japan
3. 学会等名 The Association Japanology in East Asia Spring Meeting in 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 前田廉孝	4. 発行年 2022年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 474
3. 書名 塩と帝国：近代日本の市場・専売・植民地	

1. 著者名 阿部猛・落合功・谷本雅之・浅井良夫編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 464
3. 書名 郷土史大系 生産・流通（上）	

1. 著者名 阿部猛・落合功・谷本雅之・浅井良夫ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 432
3. 書名 郷土史大系 生産・流通（下）	

1. 著者名 谷本雅之ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本経営史研究所	5. 総ページ数 301
3. 書名 国分三百年史史料	

1. 著者名 中西聡・二谷智子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 424
3. 書名 近代日本の消費と生活世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋口 勝利 (Hashiguchi Katsutoshi) (00454596)	慶應義塾大学・経済学部(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	谷本 雅之 (Tanimoto Masayuki) (10197535)	東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・教授 (12601)	
研究分担者	落合 功 (Ochiai Kou) (10309619)	青山学院大学・経済学部・教授 (32601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三科 仁伸 (Mishina Masanobu) (10825152)	拓殖大学・商学部・准教授 (25501)	
研究分担者	中西 聡 (Nakanishi Satoru) (20251457)	慶應義塾大学・経済学部(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	市川 大祐 (Ichikawa Daisuke) (20364226)	北海学園大学・経済学部・教授 (30107)	
研究分担者	花井 俊介 (Hanai Shunsuke) (70212149)	早稲田大学・商学大学院・教授 (32689)	
研究分担者	青木 隆浩 (Aoki Takahiro) (70353373)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	前田 廉孝 (Maeda Kiyotaka) (90708398)	慶應義塾大学・文学部(三田)・准教授 (32612)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小杉 亮介 (Kosugi Ryosuke)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田中 醇 (Tanaka Atsushi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関